

島津斉彬公も愛した花瀬川の景観

花瀬川の石畳は、約11万年前の阿多カルデラ噴火によって形成され、幅100m、距離約2kmに渡り石畳を敷き詰めたような形状の川床になっています。その上をながれる川の水が“白い花”のように見えることから、この周辺は「花瀬川」と呼ばれています。四季折々の景観を楽しむことができ、3月から4月は桜、5月には藤の花を楽しむことができます。江戸時代には島津斉彬公も訪れ、曲水の宴を楽しんだと記録が残っています(三国名勝図絵より)。斉彬公が作らせたとされる「お茶亭跡」の前では、花瀬公園まつりに合わせて抹茶のふるまいが行われます。

花瀬お茶亭休憩処